

第5世代移動通信システム (5G) の実現に向けた 第4回グローバル5Gイベントの開催概要について

第5世代モバイル推進フォーラム事務局 一般社団法人電波産業会

本5Gイベントは、日本、欧州、米国、中国、韓国、ブラジルの第5世代移動通信システム (5G) に関する6つの推進団体*が締結した覚書 (MoU) に基づき、5Gの早期実現に向けた課題や協力関係の構築のため、専門家が一堂に会し情報交換や意見交換を行うもので、年2回、各国・地域の持ち回りで開催され、覚書の署名団体が共同で運営(オーガナイザー)を務めることになっている。第1回が2016年5月に北京(中国)で、第2回が同年11月にローマ(イタリア)で開催された。第3回は、2017年5月に総務省主催により東京で開催され、第4回に向けた提言等がまとめられた。

本5Gイベントの運営は、6団体の事務局を中心にTPC (Technical Program Committee) が設置され、運営方針、プログラムの策定やモデレータ・スピーカの各団体への割当て等の審議が行われている。

「第4回グローバル5Gイベント (Global 5G Event)」が、韓国5G Forum主催により「5G, Accelerating The 4th Industrial Revolution」をテーマに開催され、各セッションにおいてプレゼンテーション及びパネルディスカッションが行われた。また、閉会後には、5G実証試験に関する視察ツアー等が行われた。

本稿は、第4回イベントに参加した、総務省、5GMFからの参加者の協力を得て、5GMFの事務局を務める一般社団法人電波産業会が作成した。

1. はじめに

第4回5Gイベントは、2017年11月22日～23日の2日間にわたり、韓国ソウルのJW Marriott Hotelにおいて開催され、政府関係者、通信事業者、機器メーカ、大学、研究機関等から約300人の専門家等の参加があった。はじめに、各国政府関係者と5G推進団体の役職者が登壇する2つのオープニングセッションが開催され、続いて、5Gについて導入計画、実証試験、利活用分野(パーティカルズ(異業種))との連携に関する3つのメインセッション、さらに、特別セッションとして、地域連携活動、ピョンチャン・オリンピック

への対応に関する2つのセッションが開催された。

各セッションでは、2020年の5G導入に向けた最新動向に関するプレゼンテーションが行われ、パネルディスカッションにおいては課題の指摘や最新の情報共有等があり、活発な質疑応答が行われた。

2. 開会式

開会にあたり、韓国・科学技術情報通信省 (MSIT) の Mr. YongSoo Kim 副大臣から、5Gに関して研究開発の重要性やピョンチャン・オリンピックでのICT (情報通信技術) 利活用に向けた取組み等の開会挨拶があった。続いて韓



■写真1. Mr. YongSoo Kim 韓国MSIT副大臣



■写真2. Dr. Seong-Mok OH 5G Forum会長

* 日本:第5世代モバイル推進フォーラム (5GMF)、欧州:5Gインフラストラクチャ協会 (5G-IA)、米国:5Gアメリカ (5G Americas)、中国:IMT-2020 (5G) プロモーショングループ (IMT-2020 (5G) PG)、韓国:5Gフォーラム (5G Forum)、ブラジル:5Gブラジル (5G Brazil)



国5G Forumを代表してDr. Seong-Mok OH 会長から、韓国における、特にSKテレコムの取組み、またWorld's First 5Gをスローガンにピョンチャン・オリンピックでの5Gの導入状況（自動運転等を含む）を紹介するキーノート・スピーチが行われた。

2.1 オープニングセッション

セッション1では、「5G導入のための政府の施策や周波数に関する協調」をテーマに政府関係者が参加した。

日本からは、政府代表として総務省電波部移動通信課の中里 学 新世代移動通信システム推進室長が、日本の5Gの取組状況について、周波数割当ての準備や総務省による5Gシステムの性能評価に関する総合実証試験の実施状況、5Gサービスの導入やビジネスモデル等について講演した。

セッション2では、「5Gの動向や推進」をテーマに5G推進団体の代表者が参加した。

日本からは、佐藤 孝平 5GMF事務局長が、5GMFの最新の活動状況として、白書の更新や5Gイベントの開催等について講演した。

2.2 課題別セッション

メインセッション1では、「5Gシステム及びサービス導入準備」をテーマに主に通信事業者等の代表者が参加した。

日本からは、松永 彰 技術委員長代理 (KDDI) が、5Gの市場とユーザの動向について、5GMFの白書の更新(第1.1版)が紹介され、特に5Gの特徴を生かした将来のビジネス等について講演した。

メインセッション2では、「5G実証試験の状況」をテーマに実証試験の実施企業や機器メーカの代表が参加した。

日本からは、奥村 幸彦 5G実証試験推進グループリーダー (NTTドコモ) が、同グループが作成した「5Gシステム総合実証試験報告書-5G活用プロジェクト企画編-」の公開と総務省による6つの実証試験プロジェクトの実施状況、今後の同グループの活動計画等について講演した。

メインセッション3では、「パーティカルズ(異業種)やエコ産業からの期待と要望」をテーマに通信事業者やソフトウェア会社等が参加した。

日本からは、中村 武宏 企画委員会委員長代理 (NTTドコモ) がモデレータを務め、吉野 仁 技術委員会 無線技



■写真3. 総務省 中里 学 室長



■写真5. KDDI 松永 彰 氏



■写真4. 佐藤 孝平 5GMF事務局長



■写真6. NTTドコモ 奥村 幸彦 氏



■写真7. NTTドコモ 中村 武宏氏



■写真8. ソフトバンク 吉野 仁氏

術部会副部会長（ソフトバンク）が、ユースケースとパーティカルからの期待について、スマートモビリティにおける自動運転やConnected-Vehicle等について講演した。

2.3 特別セッション

セッション1では、「地域を超えた連携活動」をテーマとして、主に世界の5G推進団体の代表から、国際共同プロジェクトや地域連携活動について紹介があった。

日本からは、佐藤孝平5GMF事務局長が、5GMFと海外団体との協力覚書、アジア諸国における5Gワークショップの開催、韓国5G Forumとの実証試験の共同研究に関するLoI (Letter of Intent) の締結等について講演した。

セッション2では、「ピオンチャン・オリンピックでの5G」をテーマとして、韓国側からオリンピック組織委員会、通信事業者等が参加した。

組織委員会代表からは、競技者のデータ処理や映像伝送等の多くの大会運営においてICTを駆使した利便性とエンターテインメントの演出を行う計画等が紹介された。特に5Gについては、世界で最初の実用化であることが強調されていた。

3. 閉会式

Prof. DongKu KIM 実行委員長（韓国5G Forum）から、5G実用化に向けた情報及び意見の交換の場として有意義な評価があり、関係者への感謝と閉会の挨拶が行われた。

最後に、Mr. Chris PEASON 会長（5G Americas）から、第5回グローバル5Gイベントを来年5月16日～17日の2日間にわたり、米国テキサス州オースティンで開催することが宣言され5Gイベントが閉会した。

4. その他

(1) トルコ5GTRと5GMFとの協力覚書の締結式

2日目の11月23日には、トルコ共和国・情報通信技術庁 ICTA (Information and Communication Technologies Authority of the Republic of TURKEY) の5GTRフォーラム (The Fifth-Generation Mobile Communications System Turkish Forum) と5GMFとの間で、5G研究開発や国際標準化等に関する協力覚書 (MoC : Memorandum of Co-operation) が、締結された。トルコICTAのDr. Ömer Fatih SAYAN 総裁から、今後の協力関係の構築についての期待表明があった。



■写真9. ICTA（トルコ）のDr. Ömer Fatih SAYAN総裁とMoCを締結（11月23日）

(2) 地域セミナーの開催

韓国5G Forumの呼びかけにより、アジア中近東地域から、アラブ首長国連邦 (UAE)、トルコ、台湾の通信事業者、主管庁、標準化団体が参加し、地域連携について、情報交換と意見交換が行われた。

韓国MSIT代表からの挨拶の後、各国参加者から、各国・地域における5Gへの取り組み状況として周波数や実証試験の状況、また、3G及び4Gの携帯電話に関する普及状況及び地域特有のアプリケーション等に関する紹介があった。



5GMFには、主催元からオブザーバの参加要請があり、意見交換に参加した。

(3) 5Gトライアルツアー

閉会後に、イベントの登壇者等の参加による韓国通信事業者のSKテレコム及びLGUプラスへの2つの5Gトライアルの視察ツアーが行われた。屋内での5G利用のユースケースの展示や屋外での、自動車による、3GHz帯、4GHz帯、28GHz帯にハンドオーバーする映像のデモンストレーション等が行われた。

5. おわりに

第3回5Gイベントの東京開催に続く、ソウル開催であり、セッション構成等はほぼ同様であったが、ピョンチャン・オリンピックに向けて、産学官が一体となり取り組む姿が印象的であった。2020年の国際標準に基づく実用化に向けて時間が限られてきたことから、5Gに関するグローバルな交流の場として、本5Gイベントの開催がさらに重要性を増すものと考えられ、次回米国での開催が期待される。

総務省はじめ、5GMF関係者の皆様のご協力に感謝いたしますとともに、引き続きのご支援をよろしくお願い致します。



■写真10. 講演関係者による集合写真